

「第24回震災対策技術展・横浜」参加報告

日時：2020年2月6日(木)、7日(金)

報告：防災委員 遠藤正治

場所：パシフィコ横浜Cホール、Dホール

7日(金)13:15～、会場内各ブース(50～60ブース)を巡回視察し、あい間にセミナーAとCも聴講しました。

セミナーは予約なしの当日受付だったので、こちらの希望通りにはなりませんでした。

6日のセミナーには、「南海トラフ地震対策」や、「神奈川県地震・火山災害リスク」など身近な神奈川県に関するものがあつたような気がした。

ブースは大小70余りあり、震災対策総合支援が一番多く、次に備蓄品関係です。電力・非常時通信対策、BCP関連、救助救出支援、風水害対策、非常食試食体験コーナーがありました。

やはり一番人気は非常食試食試飲体験コーナーでしょうか・・・

協力団体として、神奈川県・横浜市・横浜市消防局・気象庁・国土交通省・工学院大学・東大生産技術研究所・(公社)日本地震工学会など。

会場には各ブース間を900人ほどがうごめいていたように感じました。

1FDホールの端では、「第11回振動技術展」免振/制振/モニタリングも開かれていた。

【セミナーA】14:00～14:45 「震災対策や防災行動に地震調査研究の成果を」

～地震動予測地図と震後の地震活動の見直し情報の紹介～

講師：文科省研究開発局・地震調査研究推進本部・事務局 林 豊 氏

地震本部の目標、役割、組織構成、向こう10年での調査研究目標。

- ・海溝型地震の発生予測手法及び津波予測技術の高度化。
- ・内陸で発生する地震の長期予測技法及び大地震後の余震予測手法の高度化。
- ・社会期待を踏まえた成果の創出、新たな科学技術の活用。

いわば、過去発生地震の確率論・評価に則って、技術を駆使して「全国地震動予測地図の作成」が大きな役割。余談として、

自然災害のリスクは人の努力で変えられるが、ハザードは努力では変えられないが、人的事故は、リスクもハザードも人間の努力で変えられます。

【セミナーC】15:05～16:50 「台風・大雨からマンションを守るために、

管理組合に出来ることとは」

講師：(一社)東京都マンション管理士会 前理事 戸辺 素尚 氏

具体的でわかりやすく説明された。説明資料はHPから閲覧してくださいとのことで。

該当マンションの立地、周辺の環境条件をよく確認し、災害の的を絞り対策を立案する。

敷地の高低、周辺に水路、崖のそば、風の通り道など。建物に地下や半地下があるのか。

屋上陸屋根、ベランダ、バルコニー、テラスなどの有無、およびそれらの構造。

管理規約の見直し、ルールやマニュアルの作成整備。どこの何を、どれくらい、誰が、いつ行うのか、役割など決めておく。風水害対策備品として、

小型排水ポンプ・土嚢・止水版・ブルーシート・バケツ・スクレーパ・吸水剤・ウエス・・・通信情報機器、非常照明設備など。

階段室、堅穴シャフト、EVピット、通気管・換気口なども水の道になるので要注意。

排水系統管から、便器や、流し台、浴室などへ逆流するケースもある。

地下に受変電設備や給排水設備がある建物は浸水・漏水対策を検討しておくことが重要。

＝以下省略＝